

特118  
3

山東大震災畫帖  
井續榮助編  
國立國會圖書館



始



關東大震災畫帖



大正十二年九月一日午前十一時五十五分轟然たる音響と共に激しくゆれだした地震は刻一刻其威を逞ふし瓦は落ちる壁は飛ぶ器物は倒れてころがる歩行は困難地面は割れる家屋の倒壊相次いで起る遂に巖丈を跨る石造大建築も数多崩壊したのであつた此の間僅かに二分間逃げ後れし者は家屋の下敷となりて無残喉死を遂げ或は壁に挟まれ梁に押へられてそこにも此處にも悲鳴を擧げて救を求め一大修羅場の場面は展開されたのであつた漸く死を免れたかと思ふと忽ち四方より火が起つた折柄西北の風は強く火勢を煽ふて紅連の焔は何者をも焼き盡さん勢ひである市民の狼狽極度に達して一大混亂に陥つた右往左往我先きに逃れんとして親にはなれ子を失ひ逃れても逃れても火の襲ふ所となり遂に力盡きて倒れるあり或は逃げ場を失ひて河中に飛び込みあえなく溺死を遂げ或は火焔に包まれて焼死するもの數知れず阿鼻叫喚する所に起り焦熱地獄と化してしまつた。斯くして危ふく安全地帯に逃れ出たる者も夜に入りては絶へ間なき激震に怖やかされ雷の如き音響と共に大工場の爆発するもの相次ぎて物凄く風は益々勢を加へては凄じき大旋風を巻き起すに至つた火は愈々猛り狂ひ火炎渦を巻いて數町に及び火柱炎々として天に沖し遠き避難者の頭上には火の粉板切雨の如くに降り來りて實に悽絶悲絶であつた此恐ろしき大旋風は有名なる本所改服廠跡に於て三万二千人の無残なる焼死者を出し最も惨鼻を極めたのであります。斯くて二日二ばん燃え通した大火災はさしも全盛を極めたる大建築大橋梁悉く皆め盡して遂に帝都全戸數の七分強を灰燼に歸し横濱市は殆ど全土を焼失してしまつた東京市の罹災四十一万一千戸死者八万四千百十四人を算し傷者行方不明者幾十萬あるを知らず横濱の罹災十一万三千戸死者二万四千人其他の地方を合すれば夥しき數に、らん大慘事も今や世界の端てまで響き渡り終生忘るゝことのできぬ古今未曾有の大震災とはなつたのであります。



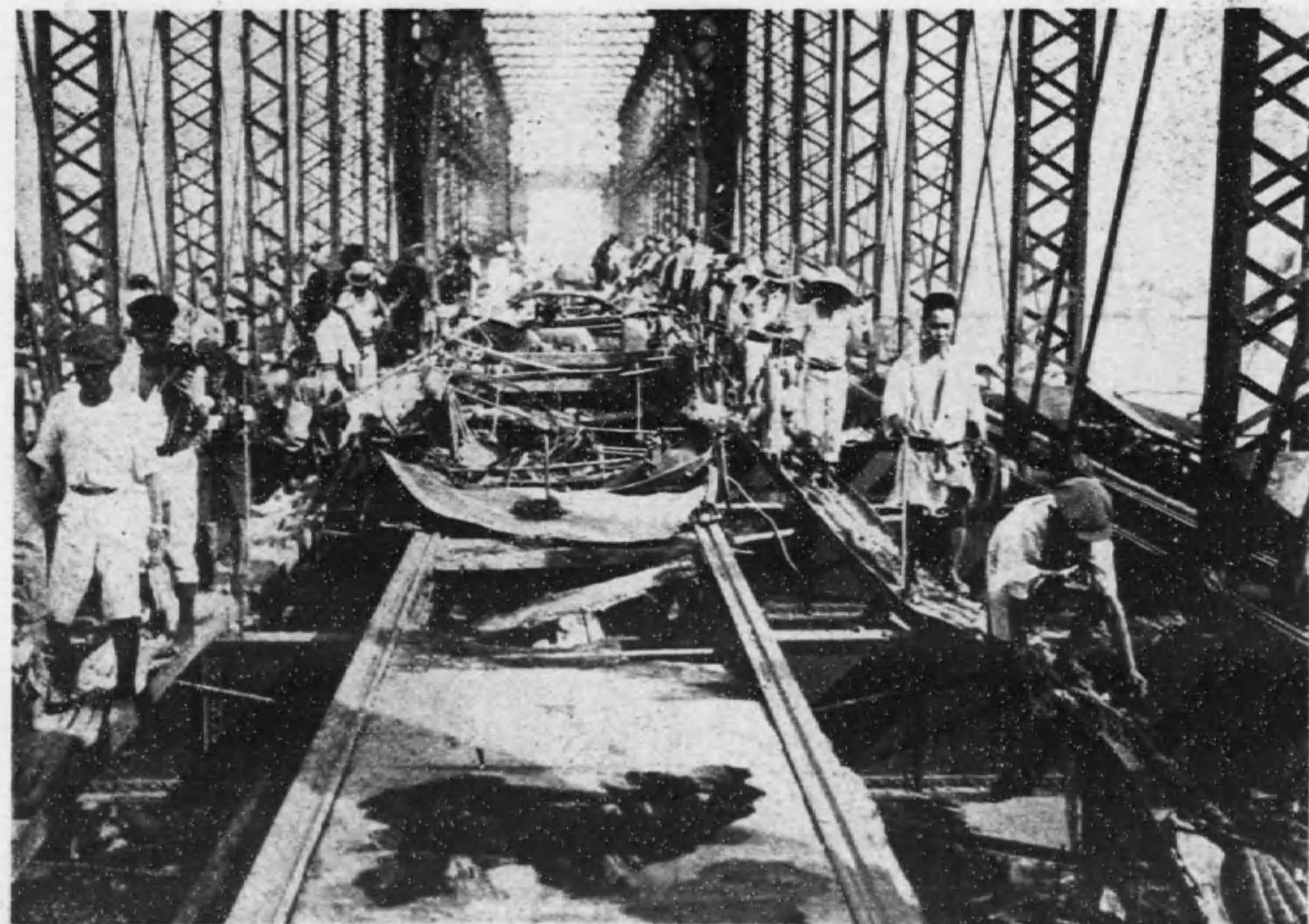
と印下殿るけ於に園公野上は眞寫 ふ給び咽に涙暗てれらせらあ察視御跡焼くし親下殿宮收攝  
長官武宮東良奈○官令司嚴戒田福○相内藤後○事知見佐宇○蓋總視警淺湯○長市田永りよ左て向



品川へ殺到せし難避る者群の集



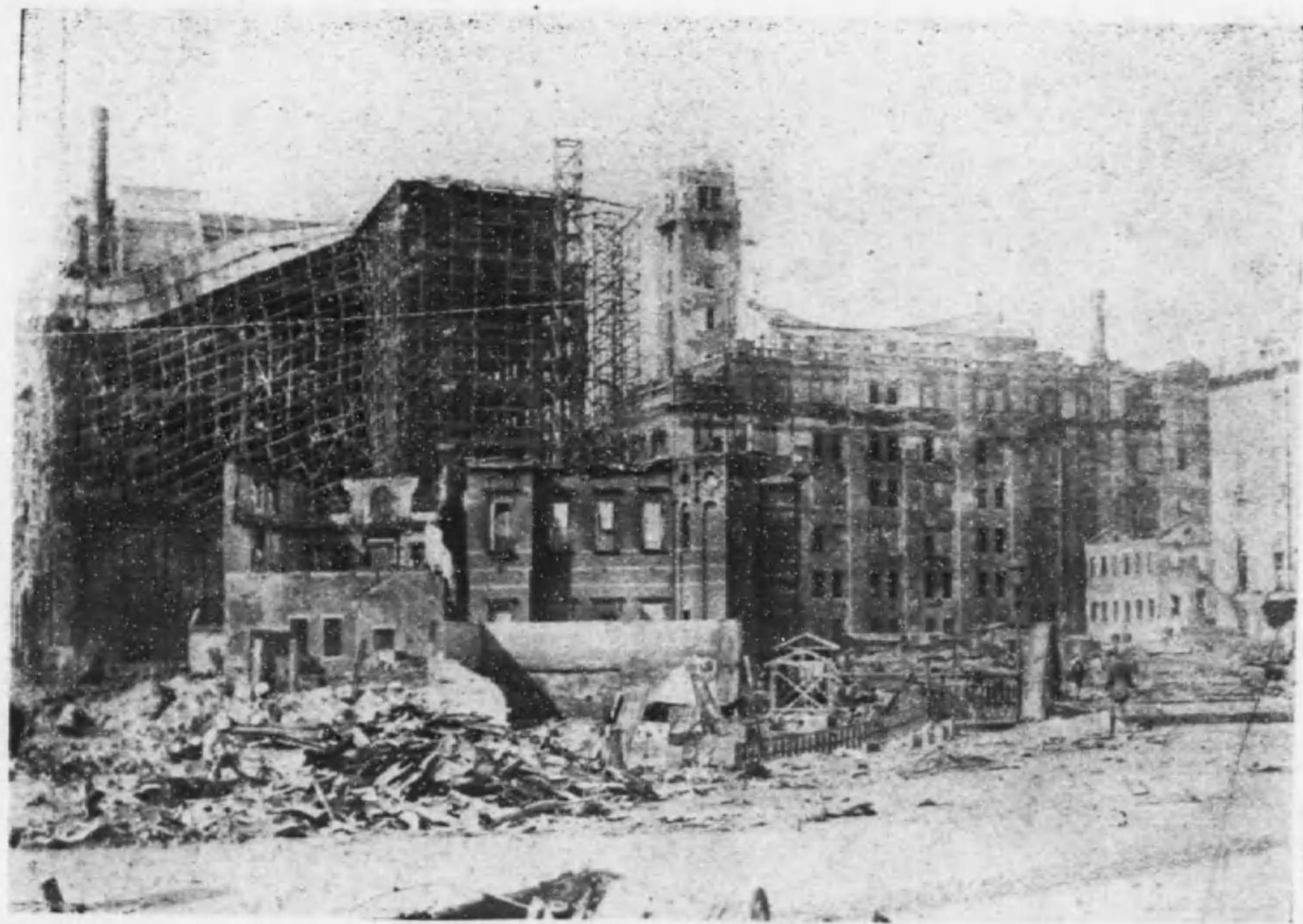
東京丸の内にてと々炎火狂  
九月一日の光景



橋やまう京東る渡くふ危てつ傳を骸残日翌たら落け焼



れ割地の道街倉鎌ふ俣を震激大



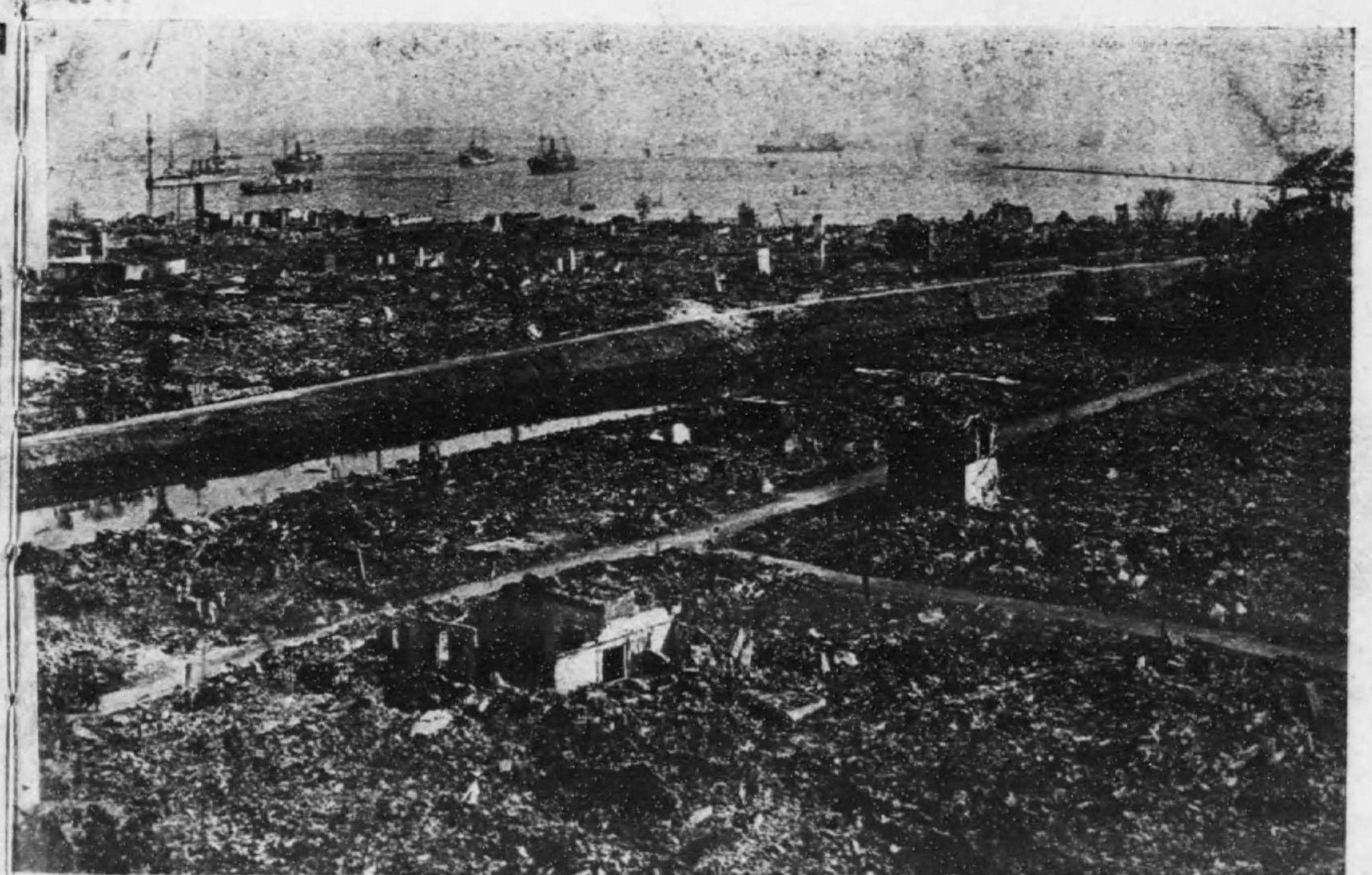
骸残の築建大層高るせ比櫛に内の丸京東



民難避の車列物貨る出れ逃に死必を中の火猛



景全の港濱横るた々莊原野燒



てし化と土焦の面一り限す渡見

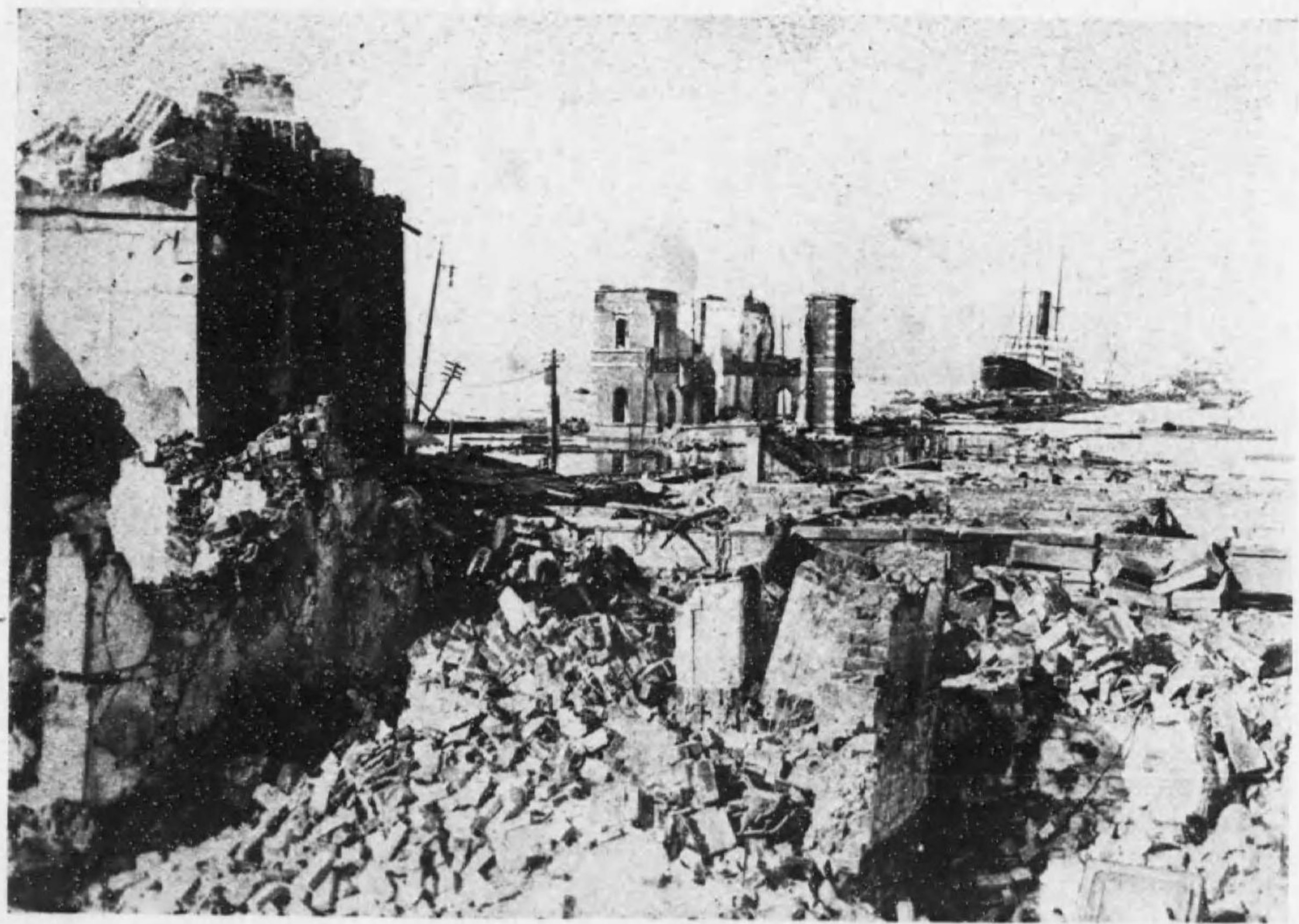


景光るた憐憐む望を面方店服吳越三りよ橋本日



と階二十たれ折しへにか僅し化と原野焼の面一も街真寫動活園公草没しめ極を盛全もしさ  
景光るた憐憐む留を骸殘の場劇國御



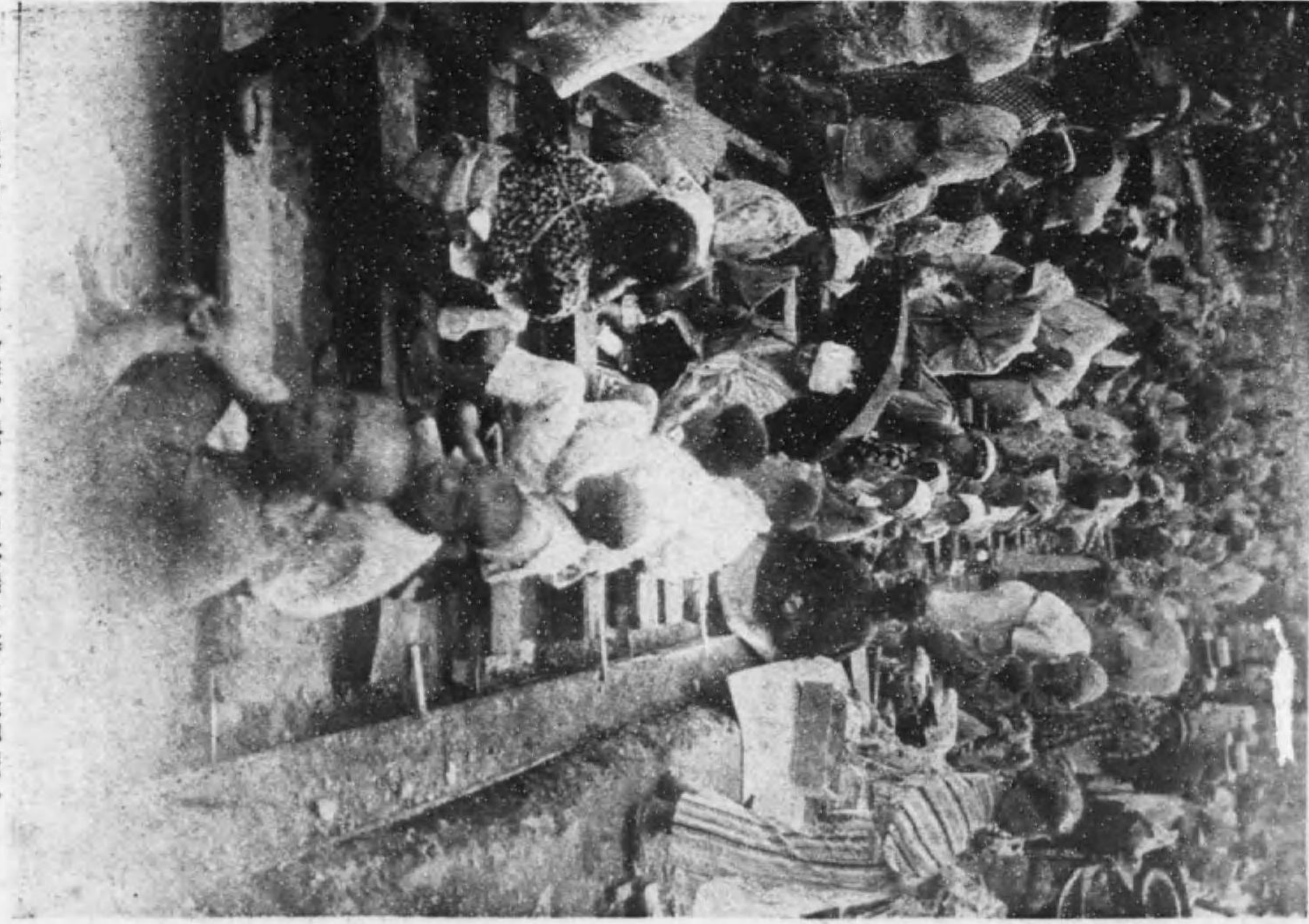


場止波ンケリメ橋棧まは横たれら去し壊破



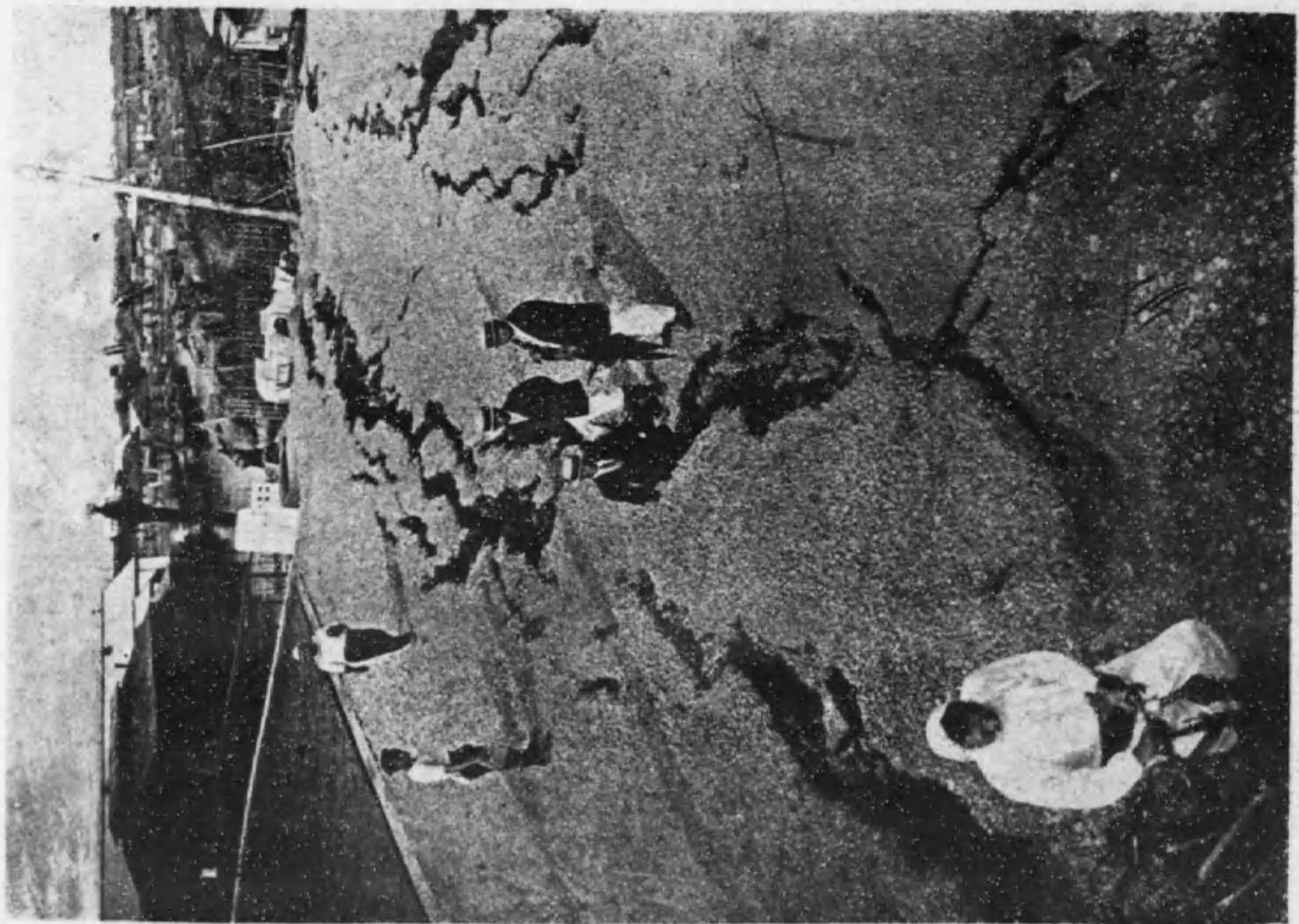
骨遺の人千二萬三たれま維と山に跡廠服被所本

野上公園に逃げた恐怖の中の一ヶ月の状況



芝浦海岸へ到着したとき食べた食糧品配給の状況

横濱厚木街道に於ける大龜烈の光景



大正十二年九月二十八日印  
大正十二年九月三十日發行

本郷區森川町一番地

編輯者 井 續 榮 助

本郷區丸山新町十三番地

印刷者 越 川 秀 吉

本郷區森川町一番地

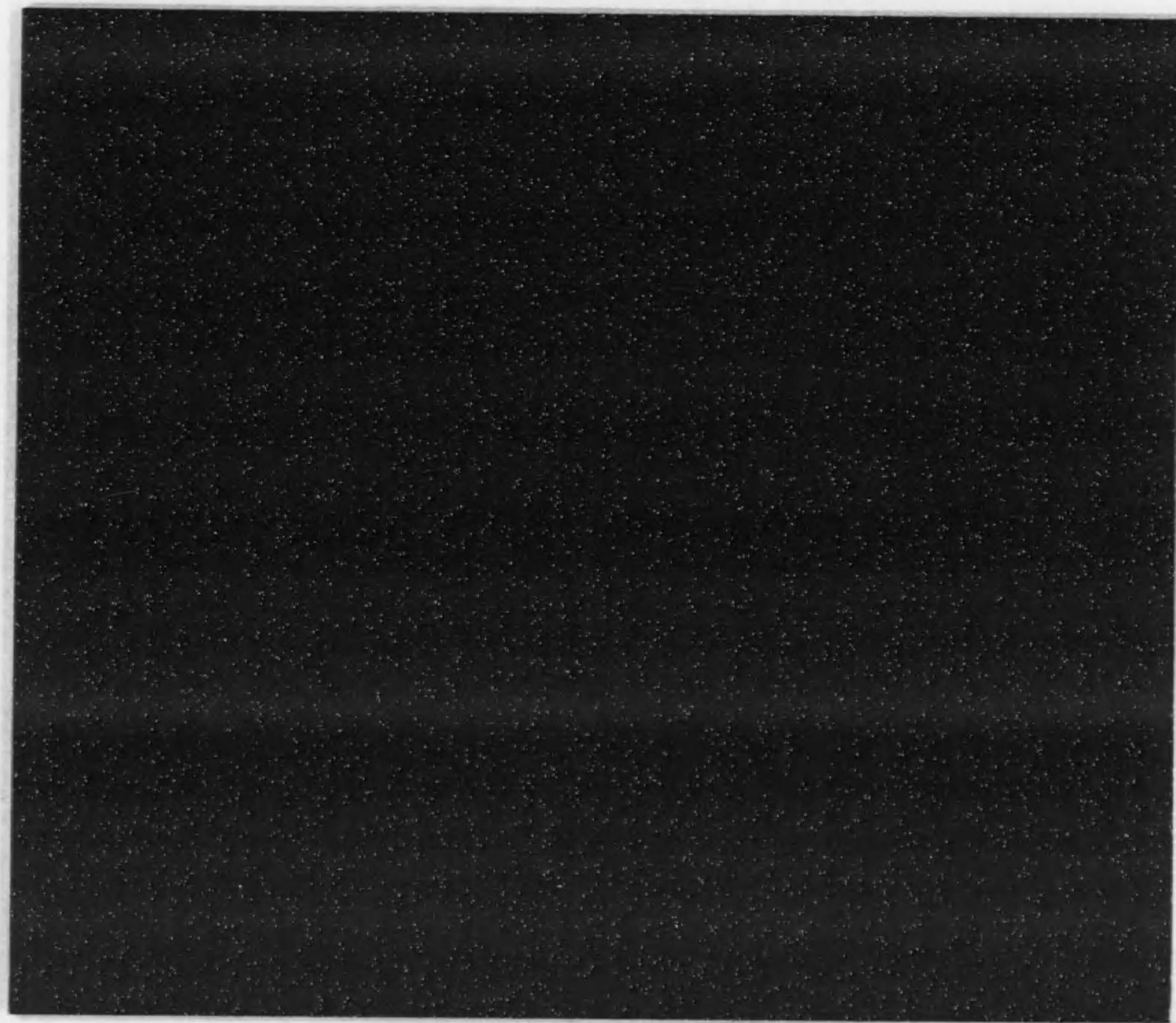
發行所

文 成 社

電話小石川三〇二一〇番



東京文成社栄行



終

